

今月の ひとこと

これだけ退職後の不安を感じている人が多いのになぜ、資産運用に踏み切れないのか。私は以下の四つが大きなハードルになっているのではないかと思います。（1）まず、銀行や証券会社での口座開設の手続きが複雑で難しすぎる。聞いたこともない用語満載の説明を長々と聞かされ、「さあ、ここに印鑑を押して・・・」と言われればそれは不安になります。（2）それから退職後のための資産形成用の口座の選択肢が多すぎる。年金制度はもともと複雑すぎるのに加えて確定拠出型も企業型やイデコがあり立場により扱いが違ふ。NISAも色々な種類がある。どれを使うのが良いのか、わからない。（3）投資を始めようとするとうちはあまりに対象商品が多すぎる。それぞれどう違ふのかもわからない。説明を聞いても難しすぎる。（4）そして最後が情報が多すぎる。投資をするには毎日たくさんの情報にアクセスして瞬時に判断を下さなければならぬと思っている人も多いし、どの情報をどのように入手すればいいのかもわからない。このようなハードルをまずもっとシンプルにすることが重要です。投資教育はこれらの難関を乗り越えたあとに必要なものです。誰もが困難を感じないでスタートできる環境整備がまず必要なのではないかと思います。

+++++
FACEBOOK上で約3600人のクラブ・インベストラライフの仲間が参加し、活発な議論をしています。投資未経験者の方の質問や疑問も大歓迎です。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください。

世界投資者週間オープニングセレモニーでの講演「投資者教育の在り方」

講演：岡本 和久



2018年10月1日に金融庁主催で世界投資者週間2018のオープニングセレモニーが開催されました。このグローバルなイベントは世界の証券市場当局の国際機関、IOSCO（証券監督者国際機関）が10月1日から7日を第二回世界投資者週間2018と定め、世界各地で投資者教育と保護に関するキャンペーンが世界中で開催されたものです。日本は世界で最初に10月1日の朝がくる国です。そこで日本でオープニングセレモニーが開かれたのです。当日は金融庁に世界13か国から80名以上の方が参加されました。セレモニーではIOSCOのボスコ会長のあいさつに続き、金融庁の水口審議官からの歓迎の挨拶、日本証券業協会鈴木会長、金融広報中央委員会吉国会長のご挨拶が行われました。その後、私が「投資者教育の在り方」というテーマでお話をさせていただきました。スピーチは英語でしたが、ここに日本語訳をご紹介します。

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 講演と座談会 掃除から始まる心の磨き方

講演：日本を美しくする会 顧問 田中 義人氏 レポーター：赤堀 薫里



掃除は、単に美しくするだけではなく、そのものが持っている本来の機能を呼び戻す力があります。そして、人は見ているものに影響を受けますから、日々の掃除を続ける内に、自己の潜在能力も開花され自己成長が育まれます。

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 投資耐久力をつける知識（上）いま、求められるファイナンシャル・ヒーラー®の役割

講演：岡本 和久 レポーター：赤堀 薫里

人生を通じての資産運用は、始めるのは簡単です。グローバルな株式インデックスファンドを毎月積立していけばいい。ただ難しいことは、それを絶対にやめないこと。途中山あり谷ありのマーケットの中でどうやって耐えてやっていくのか。そこが一番難しいところです。今回から三回シリーズで耐久力

クラブ・インベストラライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストラライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することは一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告のご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズの メール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、クラブインベストラライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

Facebookへはこちらをクリック

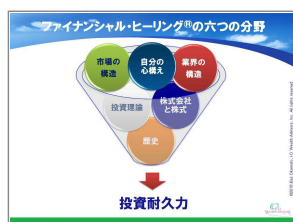
Twitter上のグループ
クラブインベストラライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

[@c_investlife](#)さんをフォロー

バックナンバー 一覧

- 2018年10月15日発行 Vol.190
- 2018年09月18日発行 Vol.189



アップのための知識を紹介していきます。今回は証券市場と業界の構造です。

- [2018年08月15日発行 Vol.188](#)
- [2018年07月16日発行 Vol.187](#)
- [2018年06月15日発行 Vol.186](#)
- [2018年05月15日発行 Vol.185](#)
- [2018年04月16日発行 Vol.184](#)



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸氏



★かえで（の語源） ★木村屋のあんぱんと明治天皇のエピソード ★この容器の名前は？ ★がま口（の由来） ★古市公威（こうい）留学時のエピソード ★惻隠の情

資産運用こぼれ話 どうしても知っておきたい五つのこと

寄稿： 岡本 和久



(1) イマジン、(2) 積立投資は貯金の延長、(3) 72の法則 (4) 投資信託は怖い (5) かんたんすぎる資産運用

インベストラ이프・アーカイブより 「ネガティブ論に惑わされずにまず年金制度の実状を知ろう」(2003.08)

石津 史子氏

私自身、某大学でFP技能検定試験対策講座の初級クラスを担当したことがあるのですが、これはその時の話です。授業にあたって、年金について次のような問いかけをして、挙手で答えてもらいました。「全員に聞きます。国民年金なんて、まったくアテにしていない人？」さて、回答の結果です。「国民年金はアテにしていない」と、大半の学生が答えたのはいうまでもありませんが、「国民年金はアテにできる」と答えた学生も5名いたことが意外だったので、ちょっと驚きました。

[読んでみる](#)

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

10月は4資産成長型が-4.81%、2資産成長型が-4.90%のパフォーマンスでした。世界各地のパフォーマンスは <https://www.ibbotson.co.jp/market/> でご覧いただけます

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

今回は国内で購入可能な代表的ETFの10月末の運用状況をリストアップしていただきました。上場インデックスファンドTOPIX（日興AM）、MAXIS トビックス上場投信（三菱UFJ国際）、上場インデックスファンド世界株式（MSCI ACWI）除く日本（日興AM）、Vanguard・トータル・ワールド・ストックETFなどのデータを紹介していただきました。

岡本和久のI-OWA日記

★どこのレストランのサラダ・ボールでしょう？ ★五代目圓楽一門会 ★東京ラーメンショー2018 10月25日開催@駒沢公園
★I-OWAマンスリー・セミナー、第14期が始まりました ★金融庁主催「小学生のためのハッピー・マネー@教室」の動画公開
★我が家のアボガド四代

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

11月18日(日) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー (158回) ■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> ■プログラム 12:30~13:30 「投資耐久力をつける方法 (下) いま、求められるファイナンシャル・ヒーラー (R) の役割」(講師：岡本 和久) 13:40~14:40: 「日本人にとっての第一次世界大戦」(ゲスト講師：作家・コラムニスト 板谷 敏彦氏) 14:45~15:30: フリー・ディスカッション、15:30~16:30: 懇談会、■スポット受講料：教室での受講は10000円+税 予約必須、動画での受講は5000円+税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

11月24日(土) 13:00~18:40 仙台 日経Wアカデミー「お金の学校in仙台 投資力アップ編 〜プロがズバリ解説!〜」
■会場：仙都会館 8階会議室 宮城県仙台市青葉区中央2-2-10 <http://www.sentokaikan.co.jp/access/> ■田中彰一さん、豊島逸夫さん、澤上篤人さんとの講演会です。岡本講演は15:40~17:00の予定、テーマは「長期に成長する企業の見分け方」です ■詳細とお申込みは以下のサイトへ：<http://www.nikkei4946.com/seminar/seminar.aspx?ID=2555>

12月2日(日) 13:00~16:00 東京 日本フィランソロピー協会主催・文部科学省後援、「社会課題に挑戦する子どもたちを支える企業・学校の取り組み」 ■会場：TKP東京セントラルカンファレンスセンター ■プログラム 13:10~14:00基調講演「社会を良くするための『お金』の役割と子どもたちへの伝え方」(岡本和久) 14:20~15:20 「事例紹介」(江東区立深川第二中学校、NECソリューションイノベーター、資生堂)、15:20~16:00: フリー・ディスカッション・発表 ■参加費：1000円 ■お申込み、お問合せ：fujikawa@philanthropy.or.jp

12月16日(日) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー (159回) ■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> ■プログラム 12:30~13:30 「寄付という投資の考え方(仮題)」(講師：岡本 和久) 13:40~14:40: 「お金で学ぶさんすう(仮題)」(ゲスト講師：お金で学ぶさんすう理事長 住山 志津枝氏) 14:45~15:30: フリー・ディスカッション、15:30~16:30: 懇談会、■スポット受講料：教室での受講は10000円+税 予約必須、動画での受講は5000円+税 お申込み、お問合せ：info@i-owa.com

2019年1月20日(日) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー (160回) ■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> ■プログラム 12:30~13:30 「出版記念講演『お金と心200%のしあわせ持ちになれるシンプルな生き方』」(講師：岡本 和久) 13:40~14:40: 「2019年、どうなる世界と日本、経済と市場(仮題)」(ゲスト講師：ブーケ・ド7・フルーレット代表 馬淵 治好氏) 14:45~15:30: フリー・ディスカッション、15:30~16:30: 懇談会、■スポット受講料：教室での受講は10000円+税 予約必須、動画での受講は5000円+税 お申込み、お問合せ：info@i-owa.com

[詳細はこちらをご覧ください。](#)



世界投資者週間オープニングセレモニーでの講演 「投資者教育の在り方」

講演: 岡本 和久

2018年10月1日に金融庁主催で世界投資者週間2018のオープニングセレモニーが開催されました。このグローバルなイベントは世界の証券市場当局の国際機関、IOSCO(証券監督者国際機関)が10月1日から7日を第二回世界投資者週間2018と定め、世界各地で投資者教育と保護に関するキャンペーンが世界中で開催されたものです。

日本は世界で最初に10月1日の朝がくる国です。そこで日本でオープニングセレモニーが開かれたのです。当日は金融庁に世界13か国から80名以上の方が参加されました。

セレモニーではIOSCOのボスコ会長のあいさつに続き、金融庁の水口審議官からの歓迎の挨拶、日本証券業協会鈴木会長、金融広報中央委員会吉国会長のご挨拶が行われました。



(IOSCO ボスコ会長からのビデオメッセージ)

その後、私が「投資者教育の在り方」というテーマでお話しをさせていただきました。スピーチは英語でしたが、ここに日本語訳をご紹介します。

<自己紹介>

おはようございます。ただ今ご紹介をいただきました投資教育家の岡本和久です。私はファイナンシャル・ヒーラーとも名乗っていますがその理由については後ほどお話しします。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

このような意義のあるグローバルな会議のオープニングセレモニーで講演させていただくことをとても光栄に思います。

今日は三つのことをお話ししたいと思います。

1. 年金運用で学んだこと、そしてなぜ投資教育を始めたのか
2. なぜ日本人は投資に消極的なのか、投資教育の三つの課題
 - 個人投資家が何を知らないかという知識の欠如
 - 生活者にとって資産運用が複雑すぎる
 - 資産運用を続ける耐久力の強化が十分されていない
3. 投資教育で教えるべきもっとも重要な二つの点
 - 人生の目的と人生の三つのステージ、それぞれのステージでどのようにお金と付き合うべきか
 - 200 パーセントのしあわせ持ちになるロードマップ

私は 1946 年に東京で生まれました。2 年間のニューヨークでの大学生活を含め、慶應義塾大学を 1971 年に卒業、日本の証券会社に入社しました。その日の日経平均は 2414 だったことを覚えています。1971 年に日本の証券会社に入り、最初の四年間は国際金融畑で東京とブラジルのサンパウロで働きました。

1975 年にニューヨークに転勤になり、その時から 15 年間、私の証券アナリストおよびストラテジストの仕事が始まりました。最初の 9 年間はニューヨークで仕事をしました。数多くの素晴らしいファンドマネジャーやアナリストの薫陶を受けたことはとても幸せでした。その後 6 年間、東京で同じ仕事をしましたが、これはまさにバブルの始まりからバブルの終焉までの期間でした。この経験もまた非常に私にとっては大きな財産となりました。

＜年金運用の世界へ＞

1990 年にご縁があって当時、年金運用の分野で急成長をしていたアメリカの資産運用会社から声が掛かりました。「東京でビジネスを開始したい」とのことで、私にその会社の社長をしてもらいたいというのです。サンフランシスコの本社を訪問して彼等の運用手法について学ぶほどにその素晴らしさに圧倒されました。まさに目から鱗が落ちるような気がしたものです。今までの 20 年近くの証券界での体験はここに至る道だったのだと確信しました。それで転職を決意しました。

折柄、マーケットはバブル崩壊後の暴落の時期にありました。ある意味、そのような非常に悪いマーケット環境が合理的な運用を提唱する私どもの運用手法に合っているという確信はありました。この確信ゆえにビジネスとしては非常に苦しい時期でしたが、ひたすら合理的な手法を訴え続けることができました。





長期投資仲間通信「インベストラيف」

また多くの素晴らしいお客様とスタッフにも恵まれました。当初のビジネスは非常に苦しいものでした。グローバルのトップからは「初めてコンタクトしてから2年間ぐらいは契約を結んではいけない。その期間に十分、お客様に運用手法を理解してもらい、その上で契約を結ぶのだ」と言われていました。

90年代中頃から徐々にビジネスが拡大し始め、2000年にかけて成長が加速しました。2005年には幸いなことに年金運用分野で投資顧問会社として日本最大となることができました。徐々に「この会社における自分の仕事は終わった」という気持ちが大きくなってきました。「自分が育てた会社ですから、これ以上、強く、大きくなってほしい」そのためには、トップにいるものが満足感、達成感を持っていてはよくない。そういう思いが強まり、2005年に私はその会社を退職させてもらい新たな事業を自ら起こしました。

<起業>

日本の人口構成を考えると、これから一般生活者が正しい資産運用をしていくことはどうしても必要であると思いました。しかし「誰もそのような正しい資産運用の方法を教えていない」というのが大きな問題であると思っていました。そのようなことから私は投資教育をその事業とすることに決めたのです。それがI-O ウェルス・アドバイザーズです。「I」はインサイド・ウェルス、「O」はアウトサイド・ウェルス、つまり、物心両面での幸福感を最大化するためのアドバイスを与えたいという気持ちを社名に込めました。



投資教育を選んだもう一つ背景があります。年金運用をしていた時の体験です。どのように素晴らしい運用手法であっても一つの運用戦略がマーケットの中でずっと良いパフォーマンスをもたらすことはありません。短期的にはうまくいくときも、うまくいかないときもあります。本当のパフォーマンスは長期間にわたって運用戦略を続けてもらうことで得ることができるのです。

そのためには、お客様に運用哲学や手法について深く理解をもらい、その信念を運用会社との間で共有し、マーケットの環境がその手法に適している時も、適していないときもずっと続けてくれるということが最終的に本当に良いパフォーマンスを生むことになるのです。つまり運用をする側はお客様に対してその運用哲学と手法を徹底的に理解してもらうことが絶対に必要です。それはまさに投資教育であると私は考えました。

<なぜ日本人は貯蓄が好きか>

日本の家計部門は2018年3月時点で1829兆円(約16.6兆ドル)の資産を持っています。その保有する膨大な資産の約8割を現預金あるいは保険や年金などで保有しています。株式の保有比



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

率は11%、投資信託は4%ほど、合計して15%と極めて少しです。これは米国では株式・投資信託が5割弱、現金・保険・年金が4割強です。ユーロエリアについてはちょうど日本とアメリカの間ぐらいと言えるのでしょうか。

なぜ、このようなことが起こっているのでしょうか。さまざまな文化的な要因もあると思いますが、80年代ぐらいまでは日本は幸いなことに経済もそれなりに成長し人口も少しずつは増加をし、しかも社会保障制度もしっかりしていました。また雇用体系も年功序列制度や終身雇用制度がありました。そのようなことから多くの人々は将来のことは、国と企業に任せておけばあまり考える必要もなく退職を迎えることができたのです。

しかし、そんな時代はもうすでに終わっています。社会経済の環境が非常に大きく変わったのです。それにもかかわらず、多くの人が相変わらず昔のままで「何なんとかなる」という根拠のない楽観を続けているのです。

<本当に必要なこと>

ですから私は日本の場合、最も重要なことは「年金だけでは退職後の生活は成り立たないのだ、将来の自分は今の自分が支えるより仕方がないのだ」ということを生活者に理解させることだと思います。それが投資教育の前提となる知識です。株式は投機の道具でまともな人間がすることではない。博打の一種であると多くの人が思っています。資産運用のニーズを感じていない人々に投資教育を押し付けようとするほど抵抗感が強まります。ですから、私は一番、重要なことは一般生活者に「なぜ資産運用をすることが人生を考える上で大切か」を知ってもらうことだと思っています。

<三つの課題>

金銭・投資教育を続けていくほどに現在の投資教育の在り方について三つの問題点を感じるようになりました。まず第1に投資教育を行う側が、個人投資家が何を知らないかということをおまひりに知らなすぎることです。投資教育を強化しなければならないということで有識者会議などが開かれます。金融業界の代表や学会の先生方が集まって議論をされています。

それぞれ立派な専門家ですが、多くの方が投資に縁のない生活者が何を知らないかを知らないのです。そこに投資教育がなかなか普及しない大きな理由があるように思います。本当に必要なのは有識者会議ではなく、無識者会議なのです。

投資教育というのは難しい資産運用の教科書に出ているようなことを教えることでもなければまた株価ゲームに習熟してもらうことでもありません。我々の生活の中でお金というものがどのような働きをしているのか、株式会社がどのように成立しているのかというような本当に基本的なことをまず十分に理解してもらうことが私は必要だと感じています。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

2 番目に重要なことは個人投資家が無理なくできるように運用の方法を究極までシンプルにしてい
くということです。私は現在、年金の運用で用いられている運用手法は極めて精緻なものであり非
常に合理的なものであると思っています。しかしそれは個人の投資家にとってはあまりに複雑すぎ
るものです。

退職後のための口座も種々ありそれぞれ要件が違います。銀行や証券会社で口座を開設するの
も極めてハードルが高いのです。投資商品もたくさんあり、投資情報も極めて多様です。これら
をもっとシンプルにすることが投資教育の前提として大切なのではないかと思います。

退職後のための資産運用というのはちょうど歯磨きのようなものです。毎朝、毎晩、歯磨きをしま
すがそれは決してエキサイティングなものでも楽しいものでもありません。しかしそれをきちんとし
ておかないと年を取った後に困ったことになる。

人生を通じての資産運用という
のもちょうど同じようなものだと思
います。資産運用を行っている
本人が、あまり運用しているとい
う意識を持たないでも退職後の
ための資産が準備されていると
いうような運用手法が理想的な
のだと思います。銘柄選択能力
も、株価見通しも、経済予測も、
不要な資産運用の方法をもっと
広める必要があるだろうと思っています。



そして3 番目に実はこれが最も大切なことではあるのですが、続けるということです。多くの方が、
一時的に株価が暴落をしたりするとせっかく積み立ててきた投資を止めてしまう方が多いのです。
どうせもっと下がるからその下がった時に買えばいいそう思うのです。また逆に株式市場が大幅
高をしたりするとつい利益を確定したくなる人も多いのです。また、しばらくすればどうせ下がるか
らその時にまた買い直せばいいそのように考えてしまうのです。

しかし容易に想像がつくようにそのような思惑はほとんどうまくいきません。誰も株価の先行きなど
は予測することができないからです。私は過去 10 年以上にわたってファイナンシャル・ヒーラー®を
名乗っています。それはまさに、長期投資の長旅において出てくる種々のストレスに負けないよう
に「癒し」を与えることこそ自分の役割だと思っているからです。癒しによって長期投資が可能にな
るのです。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

<人生の目的>

2005年に投資教育の会社を起業して以来、数多くの個人投資家の皆様とお会いして話を伺ってきました。セミナーでは、私はまず参加者に皆さんに生きている目的は何ですか人生の目的は何ですかと問いかけます。多くの方があまりはっきりと答えることができません。

お金持ちになることが人生の目的ではありません。また出世することが人生の目的でもありません。人生の目的はしあわせ持ちになることであります。それではしあわせ持ちの人生には何が必要なのでしょうか。

私は以下の六つがそれらだと思っています。お金は大切です。しかし、お金だけではしあわせにはなれません。それに加えて健康、家族、友達、趣味、そして社会貢献です。これらの六つの要因を六角形の頂点に描きます。そして、六角形ができるだけバランスが取れていて、しかも外側に大きく広がっているのが望ましいのです。もちろん、他の要素と同様、お金もとても大切です。お金があれば生活の自由度が高まり、そして困っている人や世の中のためにお金をどんどん使っていくことも可能です。

<100年人生>

私が最近、セミナーでお話するのは「お金とこころ、200%のしあわせ持ちになれる人生のロードマップ」というテーマです。今人生は100年を視野に入れたものになりつつあります。私は100年の人生を三つの期間に分けて考えています。

最初の1/3が学びの時代です。次が30代に入ってから60代中頃ぐらいまでの働きの時代です。そして最後の1/3が遊びの時代です。

学びの時代というのは人的資産の形成期です。

働きの時代は学びの時代に形成された人的資産を金融資産に変換していく時期です。つまりこの時代は人的資産の活用期であり金融資産の形成期なのです。

そして最後の遊びの時代は働きの時代に形成された金融資産を活用していく時期です。遊びというのは自分が本当にしたいことをするとそれが世の中のためになるという生き方です。この時代は次の世代に人間としての生き方を、ロールモデルを見せる時代です。

これが次の時代の人的資産の形成につながっていくのです。私はこの三つの時代それぞれにおいてどのようにお金と付き合っていくかを教えていくことが重要であると考えています。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

金銭・投資教育は人生という枠組みの中でどのようにしたらそれぞれの人が幸福感を最大化できるかという視点で行われるものでなければならないと思います。またこの三つの時代を追ってのお金との付き合い方は、今まで金銭教育や投資教育を受けたことのない大人の人に対してどのように金銭投資教育を行っていくかの段階でもあると言えます。

<学びの時代>

まず学びの時代における金銭投資教育についてお話をします。私が行っているハッピー・マネー®教室では最初にお金とは何かということを解説します。子供達がお金に対して持っているイメージはあまり良いものではありません。お金は汚いもの、お金持ちは悪い人、そのように思っている子供もたくさんいます。子供だけではなくて大人にもそのような人は多いと思います。

しかし、なぜお金が大切かということを考えてみると、お金がないと自分の欲しいもの必要なものを手に入れることができません。欲しいもの必要なものが手に入れば当然ありがたいと思います。ということは、「お金は感謝のしるし」なのです。

感謝の心があるから自分が額に汗をして働いて稼いだお金を相手に渡すのです。お金は感謝のしるしであるならば、お金を稼ぐためにどうしたらよいかも簡単に分かります。つまり人に感謝をされることをすればよいのです。世の中のためになること、周りの人がありがたいと思うこと、それをするによってお金を得ることができるのです。私は仕事というものは金銭的な要素もありますが、同時に社会貢献でもあり、また自分にとっての楽しみでもあると考えています。

さてそのようにして稼いだお金をどのように使うのが一番よいのでしょうか。私はアメリカ生まれのピギーちゃんという教育玩具を使って ハッピー・マネー®四分法を教えています。しあわせ持ちになれる四つのお金の使い方は、「使う」「貯める」「譲る」「増やす」です。言い換えれば「消費」「貯蓄」「寄付」「投資」です。

「使う」というのは今の自分のための消費です。「貯める」というのは少し先の自分のための消費です。本当は使ってしまいたいお金を我慢して貯めていくことによって大きな物を買って大きな喜びを得ることができます。我慢のご褒美は大きな喜びなのです。貯めるという行動で時間価値を学ぶことができます。「譲る」というのは自分のための支出ではなく、困っている人のため、世の中のために行うお金の使い方です。

最後の「増やす」というのはいわゆる投資です。今すぐ必要としないお金を、今、お金を必要としている企業に使わせてあげる。その企業はお金を出してくれた人に代わってそのお金を活用し、良い世の中を作るため、人々の役に立つための仕事をしてくれる。そしてみんなから受けた感謝がその企業の収益となり、その収益の一部がずっと将来自分の元に戻ってくる。これが本来の投資というものです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

このハッピー・マネー®四分法によって子供達の意識は今の自分という小さな箱の中から飛び出して、少しずつ将来のことも、世の中のことも考えることができるようになります。学びの時代にお金の本質が感謝のしるしであるということ、働くということは人から感謝されることであること、そして稼いだお金を ハッピー・マネー®四分法の「使う」「貯める」「譲る」「増やす」という使い方をする。これはぜひ子供のうちに教えておきたいことですし、またこれまで金銭投資教育を受けていない大人の方も学んでいただきたいことだと思っています。

<働きの時代>

こうして人生は学びの時代から働きの時代へと移行していきます。働きの時代の主な目的は懸命に働き、収入を増やす。そしてできる限り節約をして、将来のための投資に資金を回していくことです。

20代中頃から仕事を始め、60代中頃、あるいは人によっては70代まで働いたとしても100年という人生を考えるとかなりしっかりした経済基盤の準備が就業中に必要です。一番大切なことは 現在受け取っている給料は現在の生活費であると同時に退職後の生活費でもあるということです。退職後の生活費のためにたくさんの資金を現在の給料から取っておけば現在の生活が苦しくなります。ですから今は少額でも退職後の生活費は長い時間をかけて大きく増やしていくことが必要なのです。



金銭面で退職後の最大のリスクは、私は生活水準の大幅な切り下げであると考えています。このリスクを回避するために必要なことは単に資産を物価の上昇率並みに増やしていくのでは足りないのです。物価の上昇率＋アルファのリターンが必要です。株式市場のリターンは民間企業の生み出す付加価値から発生します。

私は非常に単純な資産運用の方法として「グローバル株式インデックスファンドをできるだけ若いうちから積立投資を行い、リタイアしてお金を必要とする時まで絶対にそれをやめない」ということを提唱しています。

資産運用の方法としてはこれだけです。難しい投資の理論も勉強も必要ありません。ただ毎月の出来事として積立投資をひたすら続けていくそれだけのことです。マーケットを見て一喜一憂する必要もありません。むしろ見ない方がいいのかもしれませんが。私はこの方法は現在年金運用で行



長期投資仲間通信「インベストラيف」

われている非常に精緻な運用手法と整合性があると思っています。理論的にも健全でありかつ実証的にも効果があるということが言えます。

<遊びの時代>

最後は遊びの時間のお金との付き合い方です。就業中から積み立ててきた全世界の株式インデックスファンドに加えて、退職時に受け取る退職金を公社債投信に投資をすることで全体のバランスを取ります。遊びの時代の資産運用で一番大きな課題はどのように資金を引き出すかです。いろいろな考え方がありますが、私は非常にシンプルな方法をお勧めしています。

例えば 100 年間の人生であると考えます。その場合には前年末の資産の時価残高を 100 マイナス現在の年齢、つまり百年人生を前提とした場合の余命年数で割ればいいのです。その金額を基本的には株式部分を売却することで引き出せばいい。次の年には前年の株式部分のパフォーマンスも考慮して 1 年少ない余命で割ればいいのです。基本的には資金の取り崩しは株式部分で行っていきます。

もう一つ高齢になればなるほど考えていただきたいのは超長期の株式投資です。自分が死んだ後も自分の代わりに世の中をより良いものにしてくれるような企業に投資をするのです。直接の子孫がそれを受け継ぐかもしれませんし、あるいは NPO 法人や信託などを使うことも考えられるでしょう。



大きな金額である必要はありません。100 年、200 年後を考えて本当に世の中の役に立つような企業を選ぶのです。その場合に大切なことは現在の株価ではありません。短期的な業績でもありません。その企業が持っている文化、つまりミッション、組織や人材、コアになる技術などが本当に重要な選択の基準になります。

またこれは株式投資に限ったものではありません。寄付という形で自分の死後もお金に生きてもらうことが可能になります。その意味では投資と寄付は非常に似ている部分があります。どちらも人間の一生をはるかに超えたお金の使い方です。

<しあわせ持ちへのロードマップ>

我々は幸せ持ちになるために今日を生きています。毎年、毎年、誕生日が来るたびに、「ああ、また 1 年間とても幸せな時を過ごせたな」と思います。そしてその幸福感を背中に背負った幸せ袋に入れるのです。そのように暮らしていくことによって、死ぬ時に最も幸せになるような人生が送れるものと思っています。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

お金は人にご縁のネットワークを気付かせてくれます。投資は人に時間をどのように使うのが良いのかを教えてくれます。つまりこれは生き方です。お金や投資のことを学んでいくことによって人間はご縁のネットワークの中でどのように生きていくのが最も幸せになれる道なのかを知ることができるのです。まさに投資教育というのは生き方の学びであるということができると思います。

ご清聴ありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より

掃除から始まる心の磨き方

講演：日本を美しくする会

顧問 田中 義人氏

レポーター：赤堀 薫里

ゲスト・プロフィール

田中 義人氏

昭和 22 年恵那市大井町生まれ。昭和 44 年 7 月東海神栄電子工業株式会社を創業、社長を務める。現在、グループ会社の株式会社中山理研社長、株式会社ナカヤマ会長。

掃除に取り組んだ経過：

今から 25 年前、日本バブル崩壊により、経営の危機に陥り生き残りの道を模索する中、平成 3 年 11 月 23 日、恵那でのイベントに参加されていた鍵山秀三郎相談役と出会う。その時、鍵山相談役から「30 年間、毎朝、トイレ掃除をしてきました、お蔭で人生も会社もよくなりました。掃除を通じて、世の中から心の荒みをなくしていきたい。」との一言に衝撃を受け、翌朝から近くの神社の清掃を始める。そして境内が美しくなる都度、次から次へと善なる変化が起きることに感動し、掃除をベースにした会社改革を進める。

そして、掃除の素晴らしさを伝えるべく平成 5 年 11 月、鍵山相談役の指導の下、日本大正村にて 35 名の仲間で開催第一回掃除に学ぶ会を開催する。それ以降、日本を美しくする会・各地掃除に学ぶ会として、全国 124ヶ所、海外では、ブラジル、中国、ニューヨーク、台湾、ルーマニア、イタリアにも広がる。昨年まで、日本を美しくする会の会長、現在、顧問

掃除は、単に美しくするだけではなく、そのものが持っている本来の機能を呼び戻す力があります。そして、人は見ているものに影響を受けますから、日々の掃除を続けるうちに、自己の潜在能力も開花され自己成長が育まれます。

ナカヤマ・グループの各社は、業種はそれぞれ違いますが、毎朝掃除をして仕事をしています。なぜ掃除を大事にしているのか。今までの私は一切掃除をしなくてもいい、機械が動けばいい、お金を稼いでくれればいいという利益第一主義の人間でした。日本の高度成長に乗り、利益も億単位で出す会社になりました。ところが、私が利益を出し、工場もきれいになり、社員にお金を配れば



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

配るほど人間関係が悪くなりました。そうこうしているうちに日本のバブルが崩壊。楽して儲けただけに環境の変化で売り上げは急落。企業は芯がないと環境の変化でガタッと下がります。

その時、経営の本当の目的はなんだろう、いい会社とはなんだろう、体質のいい会社にするには何が大切なのか考えました。そんな時に出会ったのが、恵那のイベントに参加されていたイエローハットの創業者である鍵山秀三郎先生です。鍵山先生は「30年間トイレ掃除をしてきたおかげで、人生も、会社も大変よくなった。これを通じて世の中から心の荒みをなくしていきたい。」と言っていました。



年商 500 億円の会社の社長が自らトイレの掃除をしている。姿勢を正してお話をされるのです。私は、ほれ込んでしまい、今まで掃除なんてやったことなかったのに、この人についていこうと掃除を始めることになりました。

一つの事例ですが、ある仕事は、製造過程で液漏れやガスがすごく出ました。不良品も続出して、5時になるともう一度作り直すため、仕事は深夜まで及びます。社員は定着せず赤字が続きました。私は「掃除をやろう！」と言いましたが、社員には、「掃除なんかしてたら帰宅が深夜になってしまおう」と反対されました。

そこで、掃除を仕事の中に埋め込み、徹底的に機械をばらして一枚一枚掃除をしました。一番いい状態で仕事をすれば不良品が減るのは当たり前。そこで帰宅時間もだんだん早くなり、定時に帰れるようになりました。毎日掃除をするおかげで環境も整いガスも出ない。社員も辞めなくなり、赤字が黒字になりました。同時にそのことが社員の意識を変えていきます。現場を変えることが社員の意識を変え、自分たちの職場になっていくのです。

私が何も言わなくても、方針さえ出せば自分たちの仕事として捉えてくれるようになりました。私も社員も同じ方向を見てやっていけるのでこんな楽なことはないわけです。掃除は、そのものが本来持っている強みを引き出してくれます。職場のいいものを引き出し、社員の意識も変え、次の意識を作っていきます。これは改善活動そのものです。掃除を通してこのような変化を作ることができるわけです。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

私たちは環境で思考も行動パターンも影響を受けます。一番私たちの持つ優れた能力は、環境を作ることができることです。それを意識して作ればいいわけです。リーダーになればなるほど、家庭でいえばお父さんお母さんがどんな環境を作ってあげるのか。子どもは親の思った通りにはなりません、環境が作った通りになります。

掃除の良さは、全てを受け入れるところから始まります。受け入れるからこそ汚れが取れます。今を受け入れて逃げないということです。逃げないで今を生かすこと。ないものを探すのではなく、今、残された条件を生かしてそこに価値を見い出す。価値を見い出すことで喜びが生まれます。比較ではなく自分の世界です。

自己に対する投資、自己を高めていくことになります。小さなことにも目が行くようになり、汚さなくなります。そして無意識にモノを大切にできるようになります。荒れた学校へ掃除をしに行くと、大体治まってきますね。モノを大切にすることから、人を大切にできるようになります。結果として自分の潜在能力を引き出していくようになります。人間は一人で生きているのではありません。みんなとのつながりで生きています。あなたが変われば周りも変わります。

講演の最後に歌舞伎町の掃除を例に挙げ、掃除は街まで変えていく事例や、掃除の活動が日本だけでなく、海外の政府や企業まで波及し、今後さらに広がりを見せていくこと。また、改善の中の掃除の存在感が大きくなっている現状をお話いただきました。



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より

掃除から始まる心の磨き方

- 岡本 | 長年生きていくと心身ともにゴミが溜っていく。それをきれいにしていくことはすごくいいことだと思います。
- 参加者 | 昔読んだ松下幸之助さんの本に「経営に息詰まったら掃除をしろ」という言葉がありました。それを読んだ時は、原点に立ち戻って、足下を見つめ直すというメッセージかなと思っていましたが、今日のお話を伺って、もの作りの現場で掃除をすることは、アスリートが準備体操をすることと同じことだと思いました。松下幸之助さんは偉大な人だと改めて思いました。
- 田中 | 松下幸之助さんは自ら掃除をされていますね。政治家を育てる松下政経塾で、幸之助さんは最初に「掃除をしていますか」とお話します。やはり足下のことがしっかりできなくてはいけません。一時期、政経塾の募集の採用時に私達も呼ばれて行き、一緒に掃除をしてもらえないかと頼まれました。「いくらいいいことを言っているけど、問題から逃げているような人達はだめだ。行動力のある人をとりたいたので掃除を指導してくれ」と、そんなこともありました。
- 田中 | よく海外の方が「京都の街は美しいですね。」といわれますが、京都の門川さんは「その美しさには心がなければだめだ」と言います。その心とは、昔から両隣をきれいにしたり、祇園祭の後も自分達が掃除をされたりしています。ただきれいなだけではなく、人を迎えるという心がなくてはいけない。自分達が自分達の町をつくる。日本に一つくらいこのような街があってもいいのではないかと門川さんはおっしゃって、ネオンや看板を落としました。自分達が掃除をするケア街では、土曜日に自ら自転車に来て、京大生と一緒に京都の繁華街の掃除をしています。
- 岡本 | 高橋さん(高橋陽子さん、日本フィランソロピー協会理事長)がいつもおっしゃるように寄付とも似た部分があって、「やむにやまれぬ、きれいじゃないと嫌だ」という気持ちが行動に表れるというのと、法律やルールで決められているからきれいになっていくということとは違うということですね。
- 田中 | 私たちがよく行くのは中学ですが、学校には必ず校則として掃除と挨拶をすることが入っています。後は、合唱や読書ですね。なんで日本人は挨拶をすることを大事にするのか。挨拶は人間関係を築くのに大切。掃除は場の環境。環境を作るということは、人に



長期投資仲間通信「インベストラيف」

迷惑をかけない、人に喜ばれる、もっと言えば後味のいい人生を作っていくことを昔の人は教えてくれたのではないかと思います。今はそれを考えずに口だけで挨拶をしなさい。いかに挨拶をさせるか、掃除をさせるしか考えていないわけです。どんな組織でも、上に立つものがやると大体上手いきます。やらせようと思うと、いいことほど難しい。

参加者 | 京都は室町時代から「門掃き」というものがあります。自分の家の前は100%、左右隣は一尺(30 cm)ほど掃く。お互いはそんなに侵入しません、少し掃いておくということが、伝統としてあるわけです。私が証券会社勤務の時代、京都支店に居た時に「かどはき隊」というものがありました。毎週土曜の朝に掃除をします。最初のうちは京都支店に来て、なぜこんなことをやらされるのだと思いました。でも考えてみると、行動経済学のなかに「道徳貯金」という考え方があります。いいことをすると、それが気持ちよくなるでしょ？お金が貯まるともっと貯めたいという気持ちがでてくるのと一緒に、いいことをして道徳貯金をすると、それを失いたくなくてもっと増やしていきたいと、自己増殖的に変革するのだと思います。



田中 | 「道徳貯金」は人間関係が変わってくると思います。いい人とつながってくる。確かに貯金というのは後からくっついてくることなのかなと思います。いい情報が集まる。

岡本 | お金は感謝のしるしといいますが、感謝の貯金箱の話をよくします。道徳貯金と似たようなものですが。結局、感謝の貯金箱に感謝がたまっていくと、そこに信用ができてきます。人からうけた感謝が貯まれば貯まるほどその人の信用度が高まる。これは会社でも同じだと思います。多くの人に感謝されている会社ほどその企業の信用は高まるし、国もそうです。多くの国民が感謝している国ほど国の信用度は高いし、発行している通貨もより信用度が高いものになる。国際間も同じ。感謝されている国ほど信用度が高い。いろいろな意味で信用がもとになって活動ができる。その原動力になっているのが感謝の心ではないでしょうかね。
田中さんの会社では、掃除をテコにして大きく経営体質が変わったわけですね。その時に辞めてしまった従業員の方はいますか？

田中 | 実はいました。従業員数が140~150人位いましたが、仕事がなくなってきました。普通リストラの対象は40歳くらいからですよ？40歳以上を集めて「何か手はないのか？」



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

と聞きましたがなかなかないわけです。その時に鍵山さんと出会いがあり、掃除を知りました。そこで土曜日を提供してもらい、掃除の為にでてくれといいました。40 歳以上で掃除を始めたわけです。すると若い連中が、「俺達もこんなことをやらせられるのか」とバサッと辞められたので人件費が助かったわけです。そのおかげで 40 歳以上の人が辞めずにすんだ。みんなが真剣に考え出し、会社がいい方向へ動き出しました。

岡本 | スクリーニングになったわけですね。

田中 | 若い人は、今さえ、自分さえよければという人が多かったから、お金がなかったら辞めていきます。

岡本 | 40 歳以上の人はあまり行き先がないから残った。

田中 | 現実的に生活が困りますから。同業者はみな 40 歳で切っていましたからね。私の会社はそうしなくなかったけど、知恵ができていなかった。ただあるのは休みに出て掃除をやるしかなかった。それで毎週出てきて掃除を始めると変なモノはでてくるし広がるし。

参加者 | 掃除をすることによって、実働時間が減るということはあったんですか？

田中 | 効率はよくなるし残業は減ってきますよ。

田中 | ドバイの高級官僚の人たちが私の話を聞いてくれ、家庭教育に入れていきたいといっていました。

ルーマニアで調味料を作っている会社が、製造過程で細かい粉がいっぱいあるので、一日 3 回掃除をするようにしたそうです。するとすごく業績がよくなり、ルーマニアでもトップになったそうです。掃除は、品質をあげる仕事として自分達がやらなくてはならないという発想ですね。ボランティアとか街がきれいになるというのではなく、経営にプラスになると気づいた時にやります。

参加者 | 経営論としては大変興味深いと思いますが、街をきれいにするのとはちょっと違う問題意識なのかなという気がします。

田中 | ただ、ルーマニアで 100 年続いている高校は、これを導入しようとしています。マレーシアの商工会議所の人達がこの運動を自分達もやっていきたいと打ち合わせにきます。

参加者 | ビルゲイツが、唯一長年続いている習慣は皿洗いだそうです。本当かどうか確認する方法はありませんが。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

田中 | 共同の場でお互いに何らかの手を入れることは大切です。掃除に限らず、子どもは子どもなりの何らかの役割を与える。ロボットを使うことは、当然今の時代ですからね。

岡本 | 掃除をいわゆる床を磨いたり、トイレを掃除したりという面だけでなく、自分の心の鍛錬みたいなものと考えたら、仕事の難しいプロセスをどう掃除していくのか、自分の心の中のものやモヤとしたものの掃除や、自分の持っているポートフォリオをどう掃除していくのかということもあります。
大きな目的としては、自分の精神的な成長というものが大きいのではないのでしょうか。それは必ずしも箒を持つことだけじゃなくてもいいと思います。

田中 | おっしゃる通りです。女性は朝大変ですからね。5分でもいい、窓ガラス一枚でもいいから拭くことで自分の心が落ち着きます。本来の姿は相手の命とふれあいます。それが自分を作っていきます。わずかな時間でもつくってもらうことですね。マンネリ化もしますからね。どうせやるのであれば、このいいところを引き出してやるんだと思ってやっていますね。

岡本 | 貴重なお話をありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 投資耐久力をつける知識（上） いま、求められるファイナンシャル・ヒーラー®の役割

講演：岡本 和久

レポーター：赤堀 薫里

人生を通じての資産運用は、始めるのは簡単です。グローバルな株式インデックスファンドを毎月積立していけばいい。ただ難しいことは、それを絶対やめないこと。途中、山あり谷ありのマーケットの中でどうやって耐えてやっていくのか。そこが一番難しいところです。

ウォーレン・バフェットさんは「生涯通じた投資で成功するためには、飛び抜けたIQも、非凡なビジネスセンスも、インサイダー情報もない。ただ、必要とされるのは、投資判断のための健全で知的フレームワークと感情のブレがそのフレームワークを破壊しないように心がけることだけである」と言っています。

短期的な資産価値の変動はストレスを生みます。ストレスを取り除くヒーリング（癒し）によって、長旅が初めて可能となります。

基本的に投資理論は、「マーケットはどうなるかわからないものなのか」ということを教えてくれるのです。どうやってそのわからなさを減らすかというところに、投資理論の価値があります。

ファイナンシャル・ヒーラーの役割は、健全な投資理論に基づき、実証的に効果が認められる投資手法を、できるだけ少ないストレスで実践する方法を提供すること。健全な理論の上に成り立ち、実証的に効果が認められることが重要なポイントです。

普通の個人投資家が、健全な資産運用を長期にわたって続けていけるための知識と耐久力を与える。そのためにストレスの原因となる不安や恐怖を取り除く「癒やし」を与えます。大きな不安は三つあります。将来に対する不安と、自分の行っていることに対する不安、マーケット変動に対する不安です。内的なもの、外的なもの、そして今ではなく将来に対する不安です。

リターンは予測不能だけど、コストは確実に掛かります。業者はコストを確実に取るけれど、投資家が利益を上げられるかはその時次第です。相場の予測は誰にもわかるものではありません。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ただ投信のコストは、販売手数料や信託報酬だけを見て安いかどうか判断するほど単純なものではない。隠れたコストがいろいろなところに潜んでいます。

金融グループの中には、販売会社が中核になっているところが圧倒的に多いのです。銀行であれば銀行の中に系列やグループ内の証券会社や投信会社があるし、証券会社が中核なら投信会社が関連会社としてあります。出資比率からみると独立性があるように見えますが、実際には資本的にも人的にも支配があるのが現実でしょう。

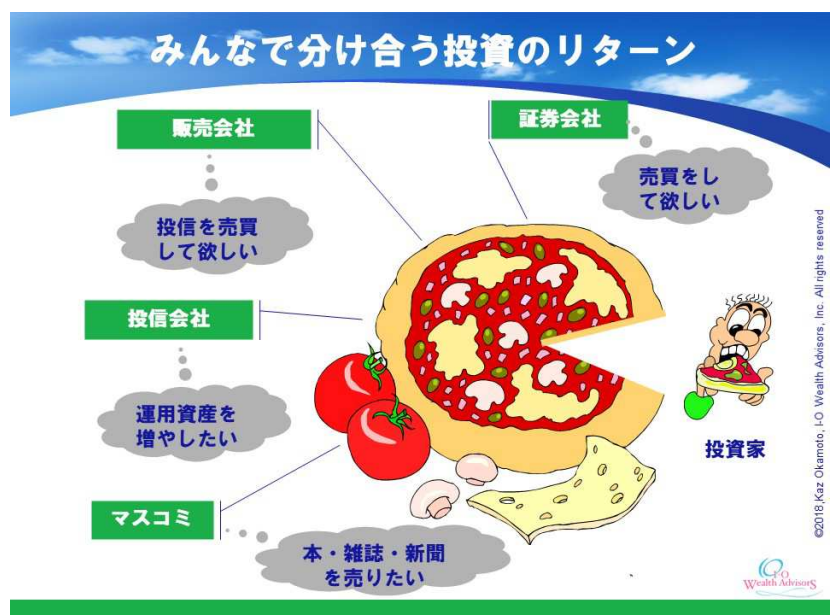
一番大きな問題は、販売会社が顧客に接するため、商品を作っている投信会社は商品を買う投資家を知らないことです。投資家とコンタクトして売り込みをするのは販売会社です。しかも、販売会社は多くの場合、グループの中核企業なので販売会社が売りやすい商品を作ってくれという要請は非常に強いのです。つまり、販売サイドの要望が優先され、お客のニーズはそれほど反映されないのが現実です。投信会社も商品を販売会社が売ってくれないことには経営が成り立たないので販売会社の言うことは聞いてしまう。

売りやすい商品はどうしても今、みんなが買っていて値上がりしている商品です。他社でよく売れている商品に類似した投信を出すこともよくあります。その結果、株価が天井に近いところで販売することとなり結果として下がってしまう。下がってしまっても、販売会社は困らない。儲かったら利食って乗り換え、下がっても損切りして乗り換える。そして販売手数料を受け取る。

投信会社は資産が増えると手数料や諸経費の比率は低下しますが、販売会社はどれほど資産が増えようと手数料は高いままです。つまり投信を保有するときには販売会社との利益相反が鍵なのです。

投資のリターンの源泉は、世界中の民間の企業が、社会に対して生み出している付加価値です。それが最終的に投資収益としてトータルリターンが投資家のもとに返ってきます。

現実には、投資家は投資という巨額のコストが掛かる食物連鎖の底辺に置かれて、食べ物にされています。こういう業界の構造が今、大きな課題となり注目され





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ていることはいいことでしょう。ただ、非常に底辺の広い分野だけに、表面的な信託報酬がいいというだけのものではないということを理解してもらいたいです。

講演では市場の構造、業界の構造についての説明。また投信のさまざまなコストについて解説くださいました。最後にマーケットの構造や業界の構造を頭に入れておくことは長期間に渡り、人生を通じて資産を運用していく上でも非常に重要であり、知っていくことで、何か起こった時に対応できるし、癒やし、安心感につながると結ばれました。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



かえで(の語源)

紅葉といえば「かえで」だが、この「かえで」は葉の形がカエルの手に似ていることから、昔は「蛙手（かへるて）」と呼ばれ、平安時代頃から「かへで」となり、「かえで」となったのである。紅葉の代表種であるイロハモミジはカエデ属の落葉高木であり、「イロハカエデ」とも呼ばれている。

蛇足ながら、「イロハモミジ」の「イロハ」は葉っぱを「いろはにほへと・・・」と数えたことに由来している。

木村屋のあんぱんと明治天皇のエピソード

木村屋總本店の創業者・木村安兵衛は江戸末期、山岡鉄舟と剣術を通じた友人であった。明治7年、安兵衛は西洋のパンとは異なる酒種を使い、その生地であんを包んで焼き上げた「あんぱん」を作りあげた。それを友人の山岡鉄舟が食べたところ、鉄舟の舌をうならせる美味であったという。当時、山岡鉄舟は明治天皇の侍従として仕えており、このあんぱんを「陛下に召し上がっていただく」と思い、明治8年献上した。この桜の花びらが埋め込まれたあんぱんは明治天皇のお気に召し、また皇后陛下のお口にもあったという。ここから山岡鉄舟が明治天皇にあんぱんを献上した4月4日を「あんぱんの日」として記念日に認定されたのである。

(追記) 1. 山岡鉄舟は木村屋の看板を揮毫している。残念ながら鉄舟直筆の看板は関東大震災で焼失してしまったが、その筆跡は銀座本店などで見ることができる。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

2. 幕臣であった山岡鉄舟は明治新政府に仕える意思はなかったものの、西郷隆盛のたつての願いから明治5年から10年の約束で明治天皇の侍従として仕えることになり、天皇の人格形成に大きな影響を与えている。

この容器の名前は？

パンや野菜などにかける片手で簡単に開けることができる写真のような容器、この名前は「ディスペンパック(dispenskap)」という。

dispense(分配する、施す)とpak(充填する、包装する)を組み合わせた造語で、(株)ディスペンパックジャパンが製造している。

元々は米国のサンフォード・レッドモンド社が1983年に開発したもので、日本では1986年にキューピー(51%)、三菱商事(39%)、三菱商事パッケージング(10%)の合併事業として(株)ディスペンパックジャパンを創業し、製造販売している。国内シェアは100%。

なお、フランクフルト等にかける「トマト&マスタード」など2種類の物を同時に出せる商品は、日本にしかないパッケージである。



がま口(の由来)

金属製の口金を持つ布袋状の財布を「がま口」と言うが、これはガマガエルのように大きく開く「口」(開口部)を持つためである。

がま口は日本独自のものという印象があるかもしれないが、実は明治期に日本にやってきた舶来品だ。明治政府の御用商人だった山城屋和助は、明治4年兵器を輸入して陸海軍に納入する条件で、政府から借金をして欧州に渡った。その時に、当時のフランスで流行していた西洋式のがま口の鞆や財布を持ち帰り、それらを模倣して売り出した。これが日本でのがま口の始まりといわれている。

※山城屋和助は明治時代の陸軍省の御用商人(元奇兵隊隊士)。長州人脈を生かして財を成したが、明治5年公金不正融資事件に関与し割腹自殺した。



古市公威(こうい)留学時のエピソード

今年は地震、豪雨、台風と自然災害で多くの人命や財産が失われてしまった。こうした被害は一刻も早い国土強靱化が求められるわが国で、緊縮財政派が招いた人災という側面もあったのではなかろうか。

こうした中で想起されるのは、明治時代に土木建設こそが「国造りの要」だと土木事業を推進した古市公威のことだ。若き古市が土木工学を学ぶため、フランスに留学していたときのエピソードがある。高熱にうなされながらも大学に行こうとする古市に、下宿先の女主人が「今日一日くらい休んだら？」と声をかけた。古市は「僕の勉強が一日でも遅れると、祖国・日本の国造りがそれだけ遅れるのです」と答えた。ここにも坂の上の雲を目指した明治の気骨がいたのである。

「土木は国造りの要」は現在でも変わっていないと思う。政府には早急な国土強靱化推進が急がれよう。(蛇足ながら)三島由紀夫の本名「公威(きみたけ)」は内務官僚であった祖父・平岡定太郎が恩顧を受けた古市公威の名をとって命名したものである。



・写真は東大本郷の工学部内にある古市公威の像(Wikipedia より)。

惻隱の情

近年、死語になった感のある言葉の一つがこの「惻隱の情」である。元々は孟子の言葉「惻隱の心は仁の端なり」からきているものだが、「他人の悲しみや不幸を、自分のこととして受け止める」という意味だ。換言すれば、相手の立場に立って、ものごとを感じとるということである。2011年の東日本大震災の時には「絆」という言葉がよく聞かれたが、「惻隱の情」は「絆」に通底する言葉なのかもしれない。

また、「惻隱の情」は戦後失われた「武士道精神」の中核をなすものでもあり、私が一番復権してほしいと願っている言葉である。



資産運用こぼれ話 どうしても知っておきたい五つのこと

寄稿：岡本 和久

1. イマジン

イマジン・・・元ビートルズのジョン・レノンの作詞・作曲で有名な曲です。その二番を替え歌にしました。

ゝ想像してごらん 国なんて無いんだと
そんなに難しくないだろう？
公的年金も国民健保も無く
そして税金も無い
さあ想像してごらん みんなが
ただ自立して生きているって・・・



これは少し誇張されすぎています。でも我々の生活をみんなお国や企業が面倒みてくれる時代はとっくの昔に過ぎています。今や将来の自分は今の自分が支えなければならない時代です。

もし、自分以外の誰も老後の面倒を見てくれないとしたらどうしますか。今の給料の一部を将来のためにとっておきますよね。そうです、今月の給料は今の生活費と退職後の生活費の両方の分なのです。

2. 積立投資は貯金の延長

今月の給料は今の生活費と退職後の生活費の両方の分なのです。そんなこと言われても今の生活だけで一杯なのにとってもじゃないけれど投資に回すお金なんてないと思うかもしれませんね。

例えば今と同じ生活水準を退職後もしたいのであれば、月給の半分は将来のためにとっておかなければなりません。相当の高給取りでなければそれは無理です。

だからお金を増やすことが必要なのです。それが投資です。とっておくだけでは将来のお金は足りません。経済活動に投じ、社会に役立てることでお金は増えるのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

みなさん、少しずつは貯金をしているでしょう。その金額が緊急時に必要とされるぐらいまで貯まったら貯金を止めて投資信託の積立投資に切り替えればいいのです。金額は5,000円ぐらいからでもできます。投資は貯蓄の延長と考えればいいのです。

3. 72の法則

72の法則をご存知でしょうか。これは $\text{利率} \times \text{年数} = 72$ となる組み合わせで資産が倍になるというものです。例えば利回り2パーセントだったら36年でお金が倍になります。4パーセントなら18年、6パーセントなら12年という具合です。

さて、今月の給料は今と将来の生活費の両方の分であるというお話をしました。今、30歳の方が65歳まで働いたとしましょう。36年間です。仮に平均の給料が100でそのうち70で今の生活をし、30を将来のために投資をしたとします。2パーセントという低利でも30歳の時に投資したお金は66歳の時には倍の60になります。31歳の時のお金は67歳で、32歳のお金は68歳で倍になります。これに若干の年金と少しでもお小遣い程度の収入があれば、ほぼ就労中と変わらない生活ができることになります。ここに投資でお金を増やすことがなぜ必要かという理由があります。

4. 投資信託は怖い

投資信託は投信とかファンドなどと呼ばれます。一般にあまり良い印象がないようです。投信で損をしたなどという声もよく聞きます。

投信はハサミのようなもの。生活になければならないものですが、使い方を間違えると怪我をすることもあります。投信は人生を通しての資産運用にはなくてはならないものです。投信で失敗するのは本当に自分が必要なものを買わずに、勧められたものばかり買うからです。

投信はたくさんの人が少額でもお金を出すことで大きな資金プールができ、それを専門家が運用してくれるスキームです。全体の金額が大きくなるのでたくさんの銘柄に分散投資ができます。また、運用をする投信会社、管理をする信託銀行、販売をする証券会社や銀行など役割がきちんと決まっていて非常に安全な商品なのです。正しい投信の使い方を知ることは資産運用に不可欠です。

5. かんたんすぎる資産運用

私は15年間にわたり年金運用に従事し、2005年に投資教育会社を起業しました。それ以来、どうしたら年金運用で行うような合理的な運用を誰でもできるシンプルなものにできるかを考え続けてきました。今、その結論に到達したと思っています。それは次のようなものです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

「全世界の株式インデックス・ファンドをできるだけ若いうちから積み立てる。そして、何があっても絶対に止めない」

簡単すぎるでしょう。株式には企業が生産活動に使っている資産の裏付けがあります。その価値は経済が拡大するとともに増加していきます。我々の生活は世界中の企業の生産活動で成り立っています。それをまとめて保有できるのがグローバル株式インデックス・ファンドです。これをまずは毎月1万円ぐらいから積立投資すればよいのです。あとはそれを絶対に止めずに続ける。ただそれだけです。

ネガティブ論に惑わずに、 まず公的年金制度の実状を知ろう

石津史子

「年金保険料は納付してもムダ!？」

最近の大学では、就職活動を意識した課外講座を設け、在学中にさまざまな資格を取得するのを手助けするところが増えています。

従来からある秘書検定やTOEIC、簿記検定や司法試験の対策講座に加え、生保や銀行、証券会社への就職に有利だということで、FP技能検定試験も人気の高い講座の一つだということです。

私自身、某大学でFP技能検定試験対策講座の初級クラスを担当したことがあるのですが、これはその時の話です。

授業にあたって、年金について次のような問いかけをして、挙手で答えてもらいました。

「みなさんの中で20歳以上の人は？」

「20歳以上の人で、国民年金の手続きをした人？」

「全員に聞きます。国民年金なんて、まったくアテにしていない人？」

さて、回答の結果です。

受講生の大半を占めていた20歳以上の学生のうち3分の1は、「学生の納付特例」の手続きをとっていました。

一方、まったく手続きをしていない学生も3分の1。

そして残りの3分の1は、国民年金の月額1万3300円の保険料を自分で納付している学生と、年金手帳すら見たことがない学生でした。

また最後の質問については、「国民年金はアテにしていない」と、大半の学生が答えたのはいうまでもありませんが、「国民年金はアテにできる」と答えた学生も5名いたことが意外だったので、ちょっと驚きました。

公的年金制度の内容を 知らなすぎる若年層

これは大体、想像していた通りの結果でしたが、それにしても、公的年金について何も知らない若者がいかに多いかには、心が痛みました。

「国民年金の保険料は払う意味がない!」と若者たちは言うのですが、果たしてそうなのでしょうか。本当に制度のしくみを知った上で言っているのでしょうか!?

それだけに、「落とし穴は意外に多いのよ! 国の年金制度をアテにしないのはあなたの勝手だけれど、年金制度をどれほど勉強しましたか? 無駄は少しでもイヤだという合理的な生き方には大賛成だけれど、あなた個人にとって、社会保障を無視することが最も合理的な生き方かどうかについては、真剣に考えてみた方がいいと思います」等々、結構、説教じみた講義をしてしまったかもしれません……。

もちろん、私は国の制度を押しつける立場の者ではありません。過去18年間、社会保険労務士・ファイナンシャルプランナーとしてさまざまな相談を承ってきた者として、個人にとって公的年金がどれほど頼りにされているかを知る反面、その一方で、行政側がどれほど無責任な小手先の制度改正を行ってきたかも見てきました。ですから、耳を傾けて聴いてくださる方々に対して、その体験を通して強く感じてきたことを素直にお伝えすることができればと思っています。

ギリギリの状況になると やはり支えになる公的年金

とても固い話で恐縮ですが……社会保障制度は、憲法第25条にうたわれている国民の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障するものです。そして、その中の一つが公的年金で、国民の所得を保障することを目的としています。

そして公的年金には、次の三つの種類があります。

- 1) 高齢で働けなくなった時の所得保障としての「老齢(退職)年金」
- 2) 障害者となった場合の所得保障としての「障害年金」
- 3) 一家の世帯主などの死亡により、家族が困窮しないようにするための「遺族年金」

これらの年金は、法律でそれぞれ支給要件が定め

られていて、それをクリアした場合に受給できるしくみになっています。

老齢（退職）年金は、原則として65歳から支給されます。厚生年金に加入していた男性の場合、昭和36年4月1日以前に生まれている人には、60歳から64歳の間でもらえる経過措置の年金がありますが、いずれにしても長い人生の後半を支える所得保障です。

一方、万一の場合に備える障害年金や遺族年金の守備範囲は、人生の大部分をカバーしています。

それなのに、どうして日本人のように保険好きの国民が、万一の時のことを考えて年金を意識しないのが不思議でならないのです。

ネガティブ面ばかりの強調が 制度の実態を覆い隠している

こうした年金制度への無理解の原因は、抜本的な制度改革を先延ばしにして、保険料の引き上げと年金給付額の削減にばかり終始してきた最近の年金制度改正があげられるでしょう。

また、給付と負担における世代間格差・損得だけをクローズアップしてきた、報道の仕方にも原因はあると思っています。

「なぜ公的年金制度があるのか？」

「それはどのような守備範囲をもって役割を果たしているか？」

「年金制度はどのようなしくみになっているのか？」

「年金財源の調達はどのように行われ、そのための資金はどのように流れているのか？」

といった本来知っていなければならないことを、多くの人は知らないままに、一方的に与えられているマスコミなどの報道に触れて不信感をつのらせていくわけですから、若者の風潮がアンチ公的年金になっていても不思議ではないかもしれません。

そこで、学生たちに公的年金の重要性を理解させるために、次のような例で説明を行ってみました。

「たとえば、20歳6ヵ月の学生A君と、19歳10ヵ月の学生B君がいるとしましょう。この2人がドライブ中に事故を起こし、幸い一命だけは取り留めましたが、A君は一生車椅子で生活しなければならない障害を負い、B君も失明してしまいました。

彼らはこれから将来に向かって、それぞれの障害と向き合って生きていかなければなりません、2人

にはどのような所得保障があるのかしら？」

A君は20歳6ヵ月です。20歳に達した日（誕生日の前日のこと）を含んでいる月から、国民年金に加入（強制加入）することになっています。

ですから、送付されてきている年金手帳と学生証などを持って、住民票のある住所地の国民年金の窓口で「学生の納付特例」の申請を届け出ていれば、国民年金の保険料の納付を猶予してもらえ、障害基礎年金（国民年金から支給される障害年金）も受給できたはずです。

この申請は年度ごとに更新が必要ですが、年収133万円以下（所得68万円以下）なら通信制・夜間部などの学生でも、同様の取り扱いが受けられるのです。

下半身の神経が麻痺し車椅子の生活を強いられるような重い障害であれば、1級の障害基礎年金（年額約100万円）、片足を切断した場合などであれば2級（80万円程度）の障害基礎年金が受給できます。

もちろんこれらの年金にも物価スライド（全国消費者物価指数の変動により、翌年度からの年金額を見直し貨幣価値を保つ制度。たとえば平成15年度はマイナス0.9%の物価スライドが実施された）が適用されますから、年金額は毎年見直され、貨幣の価値に見合う額が生涯支払われます。

「しかし、ここにいる大半の皆さんのように、A君が国民年金の手続きを何もしていなかった場合は、残念ながら一生、障害基礎年金をもらうことはできません。理由は、国民年金の保険料を滞納していたからです。

それに対して、B君は20歳未満の19歳で事故に遭ったので、20歳になれば障害者認定を受けることができて、福祉的な観点から障害の程度に応じた障害基礎年金が一生支払われるのです」

こう話したところ、学生の間でどよめきがありました。

「『フリーター』という言葉が定着しているように、大学を卒業しても定職につかないで、アルバイトで生活している人も珍しくありませんね。このように学生でなくても生活するのにやっとの収入しか得られない時期は、国民年金の保険料免除制度を利用するといいいのです。

これらは、住所地の国民年金の窓口で申請しますが、全額を免除する制度に加えて、半額免除制度もあります。このように、その時の経済状態に応じて

こまめに手続きをすれば、保険料の滞納ではありませんから、障害年金や遺族年金を受給できる権利をずっと維持できるのです」

講義を終えた後、「私の場合、どうなるんでしょう？」といった質問をする学生の列ができたのはいうまでもありません。そして、「自分たちは勉強したから失敗しないように気をつけることができるけれど、何も知らないで年金手帳を失ったり特例の手続きに行かない友だちも多い。どうにかならないものだろうか」と口々に話しながら帰っていきました。

公的年金は最低限の生活保障と考 え、老後資金計画を組み立てる

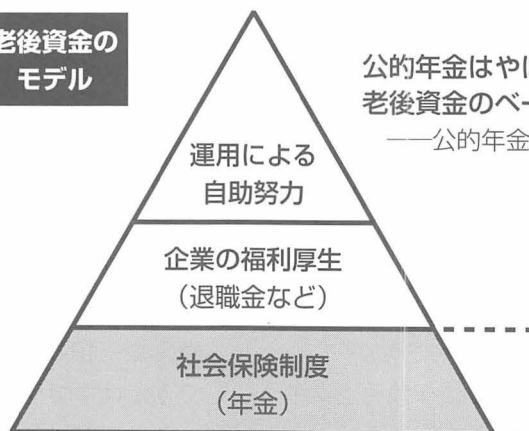
ところで、このような障害年金や遺族年金の実力を知ること大切ですが、公的年金の中心柱は何といっても「老齢（退職）年金」であり、私たちが健康で心豊かな老後生活を送ろうとするにあたって、どのぐらいの実力を発揮してくれるものなのかが気になるものです。

セミナーなどで、「国民年金に、20歳から60歳になるまでの40年間（480ヵ月）保険料を納付し続けた場合、65歳から受給できる年金額は79万7000円（月額6万6416円）です」と言うのと、どこからともなく必ず、「なあんだ、それだけ！」というつぶやきが聞こえてきます。

「40年間も払い続けてきたのだから……」という思いが落胆につながるのでしょうか。また厚生年金と比較した場合、「40年加入していると、65歳から20万円くらいもらうのは普通だから、国民年金は頼りない制度だねえ……」というため息でしょう。

しかし、もともと国民年金は全国民共通の「基礎年金」と位置づけされた年金です。ですからその年金額は「すべての国民が健康で文化的な最低限の生活を営む権利を保障される」程度のものであり、具体的には単身高齢者の食費（月額3万1830円）・住居費（月額1万6659円）・水道光熱費（月額1万1006円）

老後資金の モデル



公的年金はやはり
老後資金のベースではないだろうか？

——公的年金は縮小するとしても、
ゼロにはならない

ぐらいがカバーできる水準だと最初から割り切っていれば、あまり落胆することもないのだろーと思えます。（括弧内の数字は、総務省統計局の「家計調査〈単身世帯〉結果の概況」〈平成14年度〉より単身高齢無職世帯の消費支出〈14万8739円〉をもとに算出）

もちろん、これは統計上の話ですから、それぞれ自分の生活に置き換えて算出することが大切なのはいうまでもありません。

たとえば賃貸住宅であれば、もっと住居費もかかるし、自給自足ができるようであれば食費はあまりかかりません。都会暮らしなのか、田舎暮らしかによっても変わってくると思います。

いずれにせよ、「ハッピーリタイアメント」のためには、次のような一連の行動が不可欠なのです。

① 現在の生活水準から、将来の生活資金を推しはかる



② 基礎年金や厚生年金などの公的年金から受給できる年金水準を、今後の動向を見極めた上で見積もる



③ ①と②の差額、すなわち老後資金の不足分を準備するために、合理的かつ効果的な方法を考え、速やかに行動に移す

制度維持のためには、 消費税率UPも合理的ではないか

とはいえ、年金制度が信頼のおけないものだったら、とても生活保障のベースに据えることはできません。だからこそ、「基礎年金には安定した財源があ

るから年金支給は将来も大丈夫だ」という確信を持ちたいものです。

私自身としては、もし、安定した年金財源確保のためならば、たとえ消費税率が大幅にアップするとしても、納得することではないかと思っています。

現在、老齢基礎年金の国庫負担の割合は3分の1ですが、これが2分の1にまで高められたとしたら、基礎年金の安定性が高まり、若者たちの年金制度への理解や信頼も得られることと思います。

今、国が行わなければならないのは、基礎年金のあるべき姿を明確にし、その青写真を国民に示してきちんと理解してもらう努力ではないでしょうか。

日本の人口ピラミッドを見れば、おそらくほとんどの人が、将来の年金制度がどのような道をたどるか予想はつくことでしょう。保険料を負担できる労働者人口が減少していくのですから、年金額は確実に減るし、保険料負担は今よりも確実に増えるだろうということは、誰の目にも明白なことです。

実際に私の周りを見ても、かなり多くの人がこうした事態に対する覚悟はできているようです。

ところが国の財政再計算の前提は甘めなので、結果として抜本的な改革にメスが入らず、先延ばしにされているのが最近の年金制度改革だと思っています。

たとえば前回の1999年の財政再計算では、将来推計人口について、2050年の合計特殊出生率は1.61人になっているだろうという数字で試算しています。

出生率を高める特効薬的な施策が用意されているならば別ですが、2002年の合計特殊出生率が、過去最悪だった2001年の1.33人を割り込む1.32人だったということからしても、なぜそのような数字が使われたのか、本当に不思議でたまらないのです。30年から50年先までの経済的要素と将来推計人口をもとにして財政再計算が行われるわけですから、誤差が生じるのは当たり前です。でも、誤差は大きければ大きいほど次世代へのツケになるのですから、国民が納得できるような数値を用いて年金財政の再計算をして欲しいものです。

年金財政再計算についてはほかにも注文はありますが、どんなに精密に計算しても必ず誤差は生じますよね。だから、このような話はこれぐらいにして、もっと、私たち自身が心豊かで経済的に安定した老後をおくるためには、どう行動すればいいかを考えていきましょう。

欧米に見る「引退」を祝福する文化

10年ほど前にある講演会で、欧米でリタイアする人に引退を祝福する「リタイアメント・カード」を贈る習慣のことを聞きました。

当時は「定年」という言葉に、「まだまだ働けるのに現役を引退しなければならない……」という悔しさや寂しさなどがいっぱい詰まった哀愁さえ感じられる日本では、ちょっと考えられないことだなア……と思ったものです。

もちろん、欧米にも「定年」の制度はあるものの、特にアメリカではどちらかというと、自分で引退の時期を決める人が多いそうです。そうした文化のなかでは、引退とは「仕事から解放され、自分らしく生きる人生の充実期を迎えること」と考えられているようです。そしてそんなハッピーリタイアメントを迎えた人生のヒーローに、友人や家族から贈られるのがリタイアメント・カードなのだそうです。

このリタイアメント・カードの存在を知ったおかげで、私自身ももやもやしていたそれまでの気持ちが吹っ切れ、ハッピーリタイアメントを意識するようになりました。

欧米にいる友人たちから送ってもらったリタイアメント・カードが現在手元に20枚ぐらいありますが、どれも、仕事から解き放たれて自由を謳歌することができる人への祝福の言葉で埋め尽くされています。

それぞれの人が、実状に合わせて着々とリタイアメントプランを実行する時代に

世界中どこにでも、高齢のために働けなくなる時のことを思い、自助努力する人々の姿があります。

収入の不足分を周到に準備すること、健康管理に



「引退」を祝福する文化だけに、欧米ではさまざまな「リタイアメント・カード」も市販されている

<モデルポートフォリオ:2018年10月末の運用状況>

単位：％

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ～ 226万円
4資産型	積極型	-7.09	-1.54	8.43	9.50	15.35	-2.69	17.38	70.16	89.02
	成長型	-4.81	-1.49	6.23	7.29	10.78	-1.94	11.46	47.62	68.02
	安定型	-2.53	-1.54	3.93	4.95	6.81	-1.26	5.61	27.75	47.15
2資産型	積極型	-6.80	-1.01	8.38	10.36	17.01	-2.07	17.07	72.77	102.24
	成長型	-4.90	-1.59	6.28	7.98	12.58	-1.71	11.00	50.24	78.14
	安定型	-3.00	-2.26	4.11	5.47	8.88	-1.41	5.08	30.44	54.43

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。
積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2017年10月末に1万円投資資金を積み立て始め、
2018年9月末の投資資金までとする(2018年10月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所:イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは
「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)
4資産型	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)	
	積極型	80%		20%	
	成長型	50%		50%	
	安定型	20%		80%	

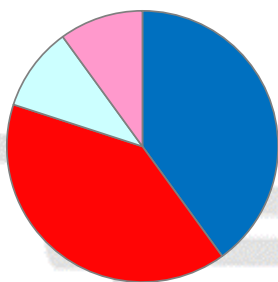
ポートフォリオは「インベストラيف」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラيف』の
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

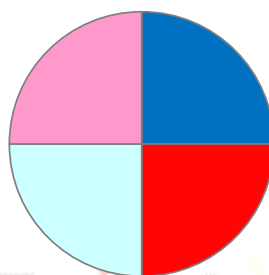
4資産型

- 国内株式:
TOPIX
- 外国株式:
MSCI KOKUSAI
- 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)
- 外国債券:
FTSE WGBI
(除く日本)

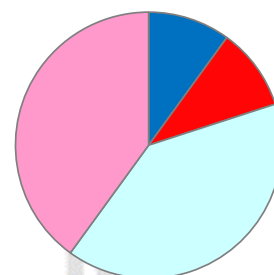
積極型



成長型



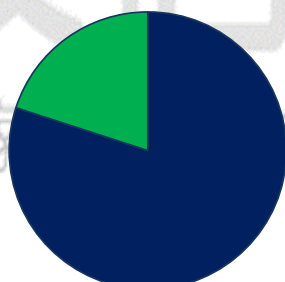
安定型



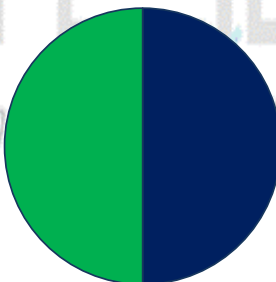
2資産型

- 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)
- 世界債券:
FTSE WGBI
(含む日本)

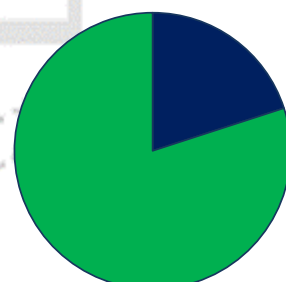
積極型



成長型



安定型



<国内で購入可能な代表的ETF:2018年10月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。※ファンド名をクリックするとそのファンドの詳細を見ることができます。

「長期投資仲間」通信『インベストライフ』のその他の記事はこちらからご覧ください。http://www.investlife.jp/

* 投信ブログ 「梅屋敷商店街のランダムウォーカー(インデックス投資実践記)」の管理人、水瀬ケンイチさんのご協力で銘柄を選定しました。
 なお、国内株式、債券、コモディティについては インベストライフ が選定しました。

Ticker	ファンド名	トータルリターン (米ドル換算)					トータルリターン (円換算)					リスク (円換算)	リスク (米・換算)	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				純資産 2018年10月末		総経費率 または 信託報酬 (%)	イボットソン 分 類	連動を目指す 投資対象指数
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)			10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円			
1308	上場インデックスファンドTOPIX (日興AM)	-8.83	-4.23	5.71	7.95	7.26	-9.41	-4.89	8.71	13.81	8.74	18.67	15.17	-5.88	18.47	46.19	70.23	11.29	71.08	122.80	204.28	31,867	35,963	0.10	国内株式・ 大型ブレード型	TOPIX(配当込み)
1348	MAXIS トピックス上場投信 (三菱UFJ国際)	-8.83	-4.25	5.70	7.94	-	-9.42	-4.90	8.70	13.80	-	-	-	-5.88	18.44	46.13	-	11.29	71.06	122.75	-	9,947	11,226	0.08	国内株式・ 大型ブレード型	TOPIX(配当込み)
1554	上場インデックスファンド世界株式 (MSCI ACWI) 除く日本(日興AM)	-8.51	-1.73	5.22	7.72	-	-9.09	-2.40	8.21	13.56	-	-	-	-3.93	16.08	42.57	-	11.53	69.65	119.76	-	37	42	0.27	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI ACWI ex Japan指数(円換算)
VT	Vanguard・トータル・ワールド・ストックETF	-7.78	-0.82	6.42	9.21	10.02	-8.37	-1.50	9.45	15.13	11.54	20.41	16.65	-2.95	19.95	49.26	86.12	11.65	71.97	125.38	223.34	11,373	12,835	0.10	外国株式・世界型	FTSE グローバル・オールキャップ指数
IOO	iShares® グローバル 100 ETF	-6.09	3.37	7.12	9.41	8.90	-6.69	2.67	10.16	15.34	10.41	20.57	16.31	1.38	25.72	54.95	88.97	12.17	75.43	130.16	226.77	1,865	2,105	0.40	外国株式・世界型	S&P グローバル 100 指数
TOK	iShares® MSCI コクサイ ETF	-7.22	1.83	7.23	10.18	10.59	-7.81	1.13	10.27	16.16	12.12	20.61	16.40	-0.81	22.31	54.47	96.56	11.90	73.39	129.75	235.87	145	164	0.25	外国株式・世界型	MSCI KOKUSAI(コクサイ) 指数
EFA	iShares® MSCI EAFE ETF	-7.99	-6.91	1.94	5.53	6.79	-8.58	-7.55	4.83	11.26	8.27	21.05	17.66	-6.64	7.72	29.11	51.50	11.20	64.63	108.45	181.80	64,459	72,746	0.32	外国株式・ 大型ブレード型	MSCI EAFE 指数
VSS	Vanguard・FTSE・オールワールド (除く米国) スモールキャップETF	-10.10	-10.87	2.49	5.37	-	-10.68	-11.48	5.40	11.09	-	-	-	-11.40	6.58	27.94	-	10.63	63.95	107.47	-	5,009	5,652	0.13	外国株式・ 中・小型ブレード型	FTSEグローバル・ スモールキャップ(除く米国) 指数
VTI	Vanguard・トータル・ストック・マーケットETF	-7.39	6.63	10.79	13.78	13.40	-7.99	5.90	13.93	19.95	14.98	20.78	15.82	1.96	32.58	75.24	138.44	12.23	79.55	147.20	286.12	99,498	112,289	0.04	米国株式・ 大型ブレード型	CRSP USTotal・マーケット指数
VB	Vanguard・スモールキャップETF	-10.08	3.33	8.43	12.73	13.90	-10.66	2.63	11.51	18.84	15.48	25.33	20.56	-1.05	25.47	64.95	128.99	11.87	75.28	138.56	274.78	22,439	25,323	0.05	米国株式・ 小型ブレード型	CRSP USスモールキャップ指数
EEM	iShares® MSCI エマージング・ マーケット ETF	-8.70	-12.90	0.21	1.30	6.62	-9.28	-13.49	3.06	6.79	8.10	23.44	21.53	-12.28	5.56	16.38	30.27	10.53	63.33	97.76	156.33	28,254	31,886	0.69	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI エマージング・マーケット指数
VWO	Vanguard・FTSE・ エマージング・マーケットETF	-7.60	-12.64	0.45	1.51	7.31	-8.20	-13.24	3.30	7.02	8.79	23.81	21.97	-12.00	4.06	15.41	31.11	10.56	62.44	96.95	157.33	53,761	60,672	0.14	外国株式・ 新興国型(複数国)	FTSEエマージング指数
FM	iShares® MSCI フロンティア 100 ETF	-3.85	-10.27	1.18	-	-	-4.47	-10.88	4.05	-	-	-	-	-10.49	1.99	-	-	10.74	61.19	-	-	488	551	0.79	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI フロンティア・マーケット 100 指数
IGOV	iShares® 世界国債(除く米国)ETF	-1.54	-2.57	-0.83	-0.32	-	-2.17	-3.23	1.98	5.08	-	-	-	-2.45	0.47	9.31	-	11.71	60.28	91.82	-	854	964	0.35	外国債券・世界型	S&Pシティグループ・ インタナショナル・ トレジャリー・ボンド指数(除く米国)
AGG	iShares®・コア 米国総合債券市場 ETF	-0.78	-2.11	1.80	1.82	3.81	-1.41	-2.78	4.70	7.35	5.25	9.29	3.31	1.03	3.88	15.87	29.56	12.12	62.33	97.33	155.47	52,568	59,325	0.05	米国債券・ 中長期型	パークレイズ米国総合指数
TIP	iShares®・米国物価連動国債 ETF	-1.47	-1.36	0.84	0.73	3.98	-2.11	-2.04	3.70	6.19	5.42	9.17	5.30	0.47	2.76	11.70	25.78	12.06	61.65	93.83	150.94	22,223	25,080	0.20	米国債券・ インフレヘッジ型	パークレイズ米国TIPS指数(シリーズL)
RWX	SPDR ダウ ジョーンズ インタナショナル リアル エステート ETF	-4.53	-1.62	1.14	5.27	7.98	-5.14	-2.29	4.01	10.98	9.48	20.35	18.71	-4.25	2.59	21.31	51.06	11.49	61.55	101.90	181.27	2,756	3,110	0.59	海外不動産 (除く米国) セクター型	ダウ・ジョーンズ・ グローバル(除く米国) セレクト・ リアル・エステート・セキュリティーズ指数
IYR	iShares®・米国不動産 ETF	-2.63	1.43	7.49	8.64	10.77	-3.26	0.73	10.54	14.54	12.30	26.02	24.23	3.15	16.95	42.73	94.71	12.38	70.17	119.89	233.66	3,331	3,760	0.43	米国不動産 セクター型	ダウ・ジョーンズ米国不動産指数
GSG	iShares® S&P GSCI コモディティ・ インデックス・トラスト	-6.13	9.95	-11.77	-9.21	-7.75	-6.73	9.20	-9.26	-4.28	-6.47	21.53	19.10	2.89	-5.28	-12.80	-17.66	12.35	56.83	73.25	98.80	1,336	1,507	0.75	コモディティ・総合	S&P GSCI商品指数
GLD	SPDR®ゴールド・シェア	2.30	-4.73	-2.10	-5.24	4.80	1.64	-5.38	0.68	-0.10	6.25	16.42	18.37	-2.81	-1.08	-0.99	8.68	11.66	59.35	83.17	130.41	29,445	33,230	0.40	コモディティ・貴金属	金地金価格 (ロンドン午後決め値)

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2017年10月末に1万円で積み立てを開始し、2018年9月末投資分までの2018年10月末における運用成果とする(2018年10月の積み立て額は入れない)。
 出所: MorningstarDirect のデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<http://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご返信ください。